

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																					
国際情報工科自動車大 学校		平成13年12月11日		双石 茂		〒963-8811 福島県郡山市方八町2-4-15 (電話) 024-956-0030																					
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																					
学校法人 国際総合学園		昭和32年10月22日		池田 祥護		〒951-8065 新潟県新潟市中央区古町通二番町541番地 (電話) 025-210-8565																					
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																						
工業	工業専門課程	情報システム工学科		平成29年文部科学省認定	—																						
学科の目的	ソフトウェア・ハードウェアの進化と共に専門的な知識を持つ技術者をソフトウェア業界では必要としています。そのためデータベース技術、ネットワーク技術、サーバ技術を体系的に身に付け、より情報関連に特化した専門的な学習を行い高度で高い技術を持った人材育成を行う。																										
認定年月日	平成26年3月31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
3年	昼間	2,571	444	1,080	1,047	0	0																				
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
75人		78人	1人	5人	6人	11人																					
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 年2回試験を実施。試験の点数、実習成果、授業課題から点数配分を行い点数に応じたA～Dの4段階評価 A評価：100～80点、B評価：79～70点 C評価：69～60点、D評価：59～0点																						
長期休み	■新緑休業：4月29日～5月7日 ■夏季休業：7月25日～8月31日 ■冬季休業：12月25日～1月7日 ■春季休業：2月11日～4月10日			卒業・進級条件	卒業・進級するためには以下の3つの要件をすべて満たしている必要がある ■総出席率90%以上 ■科目評価すべての科目C以上 ■進級基準基準検定の取得・課題・作品の提出																						
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 ・定期面談の実施 ・必要に応じた三者面談の実施 ・出席管理			課外活動	■課外活動の種類 ・ボランティア活動(各種ボランティア活動実施) ・学園祭実行委員会(学園祭の告知、PR) ・卒業パーティー実行委員会(卒業パーティーの企画運営) ■サークル活動：有																						
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) IT業界 ■就職指導内容 就職研修開催、模擬面接試験実施、個別履歴書添削、個別面接指導など ■卒業生数 20 人 ■就職希望者数 17 人 ■就職者数 17 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 85 % ■その他 ・進学者数：0名			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ITパスポート</td> <td>③</td> <td>17</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>基本情報技術者</td> <td>③</td> <td>12</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ITパスポート	③	17	9	基本情報技術者	③	12	3								
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
ITパスポート	③	17	9																								
基本情報技術者	③	12	3																								
中途退学の現状	■中途退学者 1名 令和3年4月1日時点において、在学者75名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者73名(令和4年3月31日卒業生を含む) ※情報システム工学科から高度情報工学科に転科：1名 ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任制度の採用、学生と定期的な個別面談の実施、新入生保護者対象説明会実施、進級生保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の進路確認面談など			■中退率 1.33 %																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：(有)・無 【各種特待生制度】受験する際に書類審査・面接試験結果、ランク判定により5万円～25万円の授業料免除 【進級時特待生制度】2年生、3年生に進級する際、一定の条件を満たした者に対して5万円または10万円の授業料免除 ■専門実践教育訓練給付：給付対象(非給付対象) ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：(有)・無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科のホームページURL	http://wiz.ac.jp/																										

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関業界団体、学術有識者や業界企業などで編成する「教育編成委員会」を設置。業界の専門性に関する動向や産業振興の方向性など、今後必要となる知識、技術、技能など十分に把握、分析を行い実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業内容の改善と提案を行い、企業の要請をいかしつつ教育の質の確保と向上に努める。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け
教育課程編成委員会は現状の教育課程内容を認識し、関係する業界動向を業界動向、最新の知識、機材、手法等と併せて改善が必要とされる課題を抽出し、各学科で新教育課程案を作成する。新教育課程案を学校管理者が総合的に検討、学校長の許可を経て決定する。新教育課程は次年度以降の教育課程に反映させる。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿
令和4年6月30日現在

名前	所属	任期	種別
鈴木 秀明	公益財団法人 郡山地域テクノポリス推進機構	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	①
山ノ井 靖	有限会社 山ノ井商事	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	③
浅井 涉	株式会社 d o t t	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	③
國井 稔	国際ゲーム開発協会東北（IGDA東北）	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	③
阿部 一則	国際情報工科自動車大学校 副校長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
鈴木 友二	国際情報工科自動車大学校 教務部長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
添田 一宏	国際情報工科自動車大学校 IT分野学科長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
佐藤 夢路	国際情報工科自動車大学校 専任教員	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
安齋 貴美子	国際情報工科自動車大学校 専任教員	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
橋本 友子	国際情報工科自動車大学校 専任教員	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
相樂 実紀	国際情報工科自動車大学校 専任教員	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。）

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回 (8月、2月)
(開催日時(実績))
第1回 令和3年8月6日 15:30～16:00
第2回 令和4年2月25日 15:30～16:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
・専門家講師による授業を取り入れた方が良いとの意見により「プロトタイプ演習」をカリキュラムに導入。新製品やサービスの開発の際に、事前に問題点などを洗い出すための手法を学習している。
・WordPressのカスタマイズ案件が増えてきているので、PHPを実施した後に、実施すると良いとの事で、カリキュラムへの反映を検討中。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係								
<p>(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針</p> <p>卒業後の即戦力を目指すため、最新OSに関する実習内容を強化し、受入れ企業に対しては、マンツーマンの指導者対応を要請するとともに、複数部署での実務研修を実施する方針とする。</p>								
<p>(2) 実習・演習等における企業等との連携内容</p> <p>AWSやAzureなどのクラウドを使用した開発需要が今後も高まることから次年度のカリキュラムに反映させる。卒業研究演習にAzureなどの開発実習を取り入れるよう検討中。</p>								
<p>(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>科目概要</th> <th>連携企業等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>LAMP演習</td> <td>ネットワークの基礎学習を行う。 コマンドプロンプトにてコマンド操作を学習する。</td> <td>有限会社 山ノ井商事</td> </tr> </tbody> </table>			科目名	科目概要	連携企業等	LAMP演習	ネットワークの基礎学習を行う。 コマンドプロンプトにてコマンド操作を学習する。	有限会社 山ノ井商事
科目名	科目概要	連携企業等						
LAMP演習	ネットワークの基礎学習を行う。 コマンドプロンプトにてコマンド操作を学習する。	有限会社 山ノ井商事						
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にしていること。」関係								
<p>(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針</p> <p>※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記</p> <p>基本は企業現場からの教員採用を前提としているが、学校内部で教員年数を重ねていくにつれて、ややもすれば過去の知識・経験のまま陳腐化した教育を施す危険性もある。このため、就業規則第57条等による教育・研修体制、特に外部研修を充実させ、日々の研鑽とスキルアップを図る方針とする。</p>								
<p>(2) 研修等の実績</p> <p>①専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>研修名：「ICTフェアin東北2021～デジタル変革で東北の未来を拓く～」 （主催団体：総務省東北総合通信局、東北情報通信懇談会、情報通信月間推進協議会、東北電気通信協力会、東北地方非常通信協議会、電波利用推進東北フォーラム、東北5Gデジタル変革推進フォーラム） 期間：2021年6月22日（火）～2021年8月31日（火） 対象：IT分野職員 内容：地域と未来を拓く構想とコミュニケーションについて、各企業のDXの取り組みと課題</p> <p>②指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>研修名「コロナ禍における就活対策支援のポイント」（連携企業等：株式会社ビーアライブ） 期間：令和3年10月8日（金） 対象：情報分野職員 内容：新型コロナウイルス禍で変わる就職事情と学生指導</p>								
<p>(3) 研修等の計画</p> <p>①専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>研修名：「ICTフェアin東北2022～デジタル変革で支える東北の暮らしと未来～」 （主催団体：総務省東北総合通信局、東北情報通信懇談会、情報通信月間推進協議会、東北電気通信協力会、東北地方非常通信協議会、電波利用推進東北フォーラム、東北5Gデジタル変革推進フォーラム） 期間：2021年6月22日（水）～2021年8月31日（水） 対象：IT分野職員 内容：デジタル田園都市国家構想の実現に向けての取り組み、5G更なる高度化と6G</p> <p>②指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>研修名「SNSのリスク」（連携企業等：株式会社エルテス） 期間：令和4年6月3日（金） 対象：IT分野職員 内容：SNS利用する上でのリスク、事例とその対策について</p>								

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表して

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価については、文部科学省策定の「専修学校における学校評価ガイドライン」をベースに、任意団体である全国専門学校経営研究会（加盟校：26法人113校）により協議検討を重ねた「自己点検・評価基準」を主に、点検基準表を策定し、学校が委員会等の点検・評価を基に作成し、学校長が再点検の上、学校運営に反映させる方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念、教育目的、教育目標
(2) 学校運営	教育の内容、管理運営、改革改善
(3) 教育活動	教育の内容、管理運営、改革改善
(4) 学修成果	教育目標の達成度と教育効果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育の実施体制
(7) 学生の受入れ募集	学生支援
(8) 財務	管理運営（法人）
(9) 法令等の遵守	管理運営（法人）
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

令和3年度委員会、自己点検評価に基づき不備な点の改善、方向性の決定、優良な点の継続、及び次年度以降の解決・取組課題について協議実施。評価委員からの意見として「教育の実施体制」に関して環境・エコ活動についての取り組みは重要である。学生と一緒に授業として取り組むことはどうかとの意見があり、今後の取り組みについて検討していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年6月30日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
小野 隆	一般社団法人 福島県自動車整備振興会	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	公共団体委員
嶋影 健一	公益社団法人 日本建築家協会 東北支部	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	業界団体委員
中林 寿文	特定非営利活動法人 国際ゲーム開発者協会	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	業界団体委員
嶋原 健太郎	光栄電気通信工業株式会社	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	企業等委員
鹿又 将征	株式会社アルサ	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	企業等委員
山ノ井 靖	有限会社 山ノ井商事	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	企業等委員
佐藤 理夫	福島大学 共生システム理工学類	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	教授

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他 () ()

URL:<http://wiz.ac.jp/shokuiitsu/>

公開時期：令和4年度12月

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当校の教育内容、内部活動、外部活動、資格・コンペ・表彰、また学校経営に係る事項等の実績については、公益法人として、関連団体・関連業界・学生就職先のほか、広く万人に発信する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育理念、教育目的、教育目標
(2) 各学科等の教育	教育の内容、管理運営、改革改善
(3) 教職員	教育の内容、管理運営、改革改善
(4) キャリア教育・実践的職業教育	教育目標の達成度と教育効果
(5) 様々な教育活動・教育環境	学生支援
(6) 学生の生活支援	教育の実施体制
(7) 学生納付金・修学支援	学生支援
(8) 学校の財務	管理運営（法人）
(9) 学校評価	管理運営（法人）
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（ ）

URL:<http://wiz.ac.jp/shokuiitsu/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 情報システム工学科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			コンピュータ概論	IT技術者として必要なIT技術の基本知識を身に付ける。情報処理技術者試験合格の為の知識の習得。	1前	84	—	○			○	○			
2	○			システム開発と情報化	システム開発を行うための基本的手順、開発手法、管理手法を学習する。情報処理技術者試験合格の為の知識の習得。	1前	84	—	○			○	○			
3	○			プログラミング言語 I	IT技術者（プログラマ）として必要なJavaプログラミング技術を身に付ける。	1通	156	—			○	○	○			
4	○			Office実習 I	表計算ソフト「Excel」の基本的な利用法を学ぶ。	1前	39	—			○	○			○	
5	○			アルゴリズム	IT技術者として必要なアルゴリズムの基本知識を身に付ける。情報処理技術者試験合格の為の知識の習得。	1通	156	—	○			○	○			
6	○			Office実習 II	文書作成ソフト「Word」の基本的な利用法を学ぶ。	1後	36	—			○	○			○	
7	○			データベース実習 I	データベースソフト「Access」の基本的な利用法とデータベースの基礎を学ぶ。	1後	36	—			○	○		○		
8	○			検定対策	検定試験に必要な知識の習得を行う。	1後	36	—		○		○	○			
9	○			コミュニケーション技法	社会人として必要なプレゼンテーション知識を身に付ける。模擬プレゼンテーションを通して発表のノウハウを身に付ける。	1後	36	—	○			○	○			
10	○			Excel実務	Excelを使用して実践的な文書作成を習得する	1後	36	—		○		○	○			
11	○			情報処理技術者試験特別対策	基本情報技術者試験の合格に向けた基礎知識の習得を行う。	1通	180	—		○		○	○			
12	○			システム設計開発 I	C#言語で学んだ知識を活かし、ストアアプリ開発を学ぶ。XAMLによる画面制作・非同期API連携等の技術を学ぶ。	2前	126	—			○	○	○			
13	○			プログラミング言語 II	VisualStudioを使用してプログラミング言語を学ぶ	2前	84	—		○		○	○			

14	○		Web制作基礎	HTML/CSSの基礎を学びWebページを作成する。	2前	84	—	○			○								
15	○		データベース実習Ⅱ	リレーショナルデータベースの必要性と考え方について学ぶ。SQLの習得を行う。	2前	42	—			○	○		○						
16	○		コミュニケーション実習	社会人として必要なスキルを身につける。就職後に大切な知識を身につける。	2前	42	—			○	○		○						
17	○		LAMP演習	ネットワークの基礎学習を行う。コマンドプロンプトにてコマンド操作を学習する。	2後	72	—		○		○							○	○
18	○		システム設計開発Ⅱ	アーバンデータチャレンジ出展の作品制作を通じてチーム制作について学ぶ	2後	144	—			○	○		○						
19	○		クラウド演習	Azureのクラウドサービスを通じて最新技術のクラウド機能を学ぶ	2後	36	—		○		○		○						
20	○		就職実務	ビジネスマナーやビジネススキルの習得を行う。	2後	36	—		○		○		○						
21	○		情報処理技術者試験特別対策	情報処理国家試験取得に向けた知識習得を行う。	2前	120	—		○		○		○						
22	○		就職特別対策	就職に必要な知識、マナーを習得する	2後	60	—		○		○		○						
23	○		LAMP制作	グループワークを行い企業向けのWEBサイトの構築を行う。	3前	210	—			○	○								○
24	○		プロトタイプ演習	アプリの企画とプロトタイピングの手法を学ぶ	3前	42	—		○		○								○
25	○		Unity	Unityの機能を学びアプリケーション開発に必要な技術・知識を身につける	3前	84	—		○		○		○						
26	○		就職実務	ビジネスマナーやビジネススキルの習得を行う。	3前	42	—		○		○		○						
27	○		Unix/Linux演習	Unix/Linuxを利用したサーバー構築/操作に関する知識の習得を行う。	3後	36	—		○		○								○
28	○		IoT演習	IoT技術の基礎知識を学習しIoTを使ったシステムやサービスを考える	3後	36	—		○		○		○						
29	○		卒業研究	在学中に学習した内容を踏まえて新たな技術を加えた成果物を作成する。	3後	180	—				○	○		○					
30	○		ビジネスモデル実習	事業収益を生み出すための理論的に体系化された仕組みについて学び、自分自身でビジネスモデルの構築を目指す。	3後	36	—				○	○							○

31	○	情報処理技術者試験特別対策	情報処理国家試験取得に向けた知識習得を行う。	3前	120	—	○	○	○		
32	○	就職特別対策	就職に必要な知識、マナーを習得する	3前	60	—	○	○	○		
合計			32科目	2571単位時間(単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
各科目の出席率80%以上、科目評定C以上、通年出席率90%以上 対面授業が困難な場合は、リモート授業も可能	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。